

はぐれた落ち葉

fallen leaves

KUNST ARZT では、2 年ぶり 4 度目となる、三宅佑紀の個展を開催します。
三宅佑紀は、記憶の中にある一場面を、記憶だけを頼りに表現するアーティストです。
本展は、現実とのズレはあれ、アーティストの記憶の中に確かに存在する祖母の「落ち葉」を彫り出した盆の姿を探る試みです。
これまでテーマは一貫していますが、キャンバスに油彩を軸に、パステル画に続き、シルクスクリーンを使った表現も取り入れ、表現の幅を広げています。
ご注目ください。

(KUNST ARZT 岡本光博)



しずかに、
キャンバスに油彩、2020

略歴

1994 年 岡山県出身

2016 年 成安造形大学美術領域洋画コース 卒業

2017 年 成安造形大学美術領域洋画コース伊庭靖子研究室 研究生 修了

○個展

2015 年「あのね、」【キャンパスが美術館】ギャラリーキューブ、成安造形大学

2016 年「ここら そこら」KUNST ARZT、京都府

2018 年「とおくで ささやく」KUNST ARZT、京都府

2019 年「ラベンダーの箱」KUNST ARZT、京都府

○グループ展

2014 年 京展 館長奨励賞、京都市美術館、京都府 (2015 年 同 入選)

2015 年 上野の森美術館展、上野の森美術館、東京都 (2016 年 同 入選)

2016 年 成安造形大学卒業制作展 優秀賞、京都市美術館、京都府

2016 年 landscape、【キャンパスが美術館】アートサイト、成安造形大学、滋賀県

2016 年 FINE ART/UNIVERSITY SELECTION、つくば美術館、茨城県

2017 年 京都府新鋭選抜展、京都文化博物館、京都府 (2018 年 同)

2017 年 第 10 回岡山県新進芸術家育成「I 氏賞」、岡山シティーミュージアム、岡山県

2019 年 地元現代美術作家展 ニューロケーション-視線の邂逅-、藤樹の里文化芸術会館、滋賀県

2021 年 版画 tomorrow、ギャラリーマロニエ、京都府 (5/4~5/16 予定)

2021 年 三人展「となりの空いた席」、+2、大阪府 (5/19~5/29 予定)

2021 年 7 月 13 日 (火) から 18 日 (日)

12:00 から 18:00

会 場 : KUNST ARZT

605-0033 京都東山区三条神宮道北東角 2F

アーティスト・ステイトメント

あまりにも長い時間が過ぎてしまうと、記憶というものはどれだけ大切にしまっておいても、そのままを留めておくことは難しい。ちょっとずつ失いながら、同時に日々少しずつ補って積み重ねていく。今、頭の中に浮かぶ景色は、そうしてできあがったものかもしれない。記憶が自分のなかでどのように存在しているのかということに興味を持ち、油絵の具やパステルを用いて個人の記憶やそれにまつわる感覚を他者と共有できる方法を探っている。

展覧会コンセプト

板に写した下絵を彫刻刀で少しずつ彫り出していくと、初めからそこに埋まっていたかのように落ち葉の層が現れる。20年ほど前、祖母がそういうものを作っていたのを覚えているが、記憶の中では長方形の盆のような木地にイチョウの葉が彫られていたのに、実際に祖母が遺したものは形も彫られた模様も全く異なっていた。落ち葉の盆は違う記憶が上書きされたことでできあがった架空のものであるが、記憶の中には確かに存在している。落ち葉の盆に関わる記憶を描き出し、その姿を探っていく。



ターンの練習 #05

2020
シルクスクリーンプリント、モノタイプ
Φ 12cm



上

夜のスケッチ #7 conza sumatrensis

2019
ケント紙にパステル、
4×18cm

下

夜のスケッチ #7 conza sumatrensis
(部分)

2019
ケント紙にパステル、2019、
14×18cm